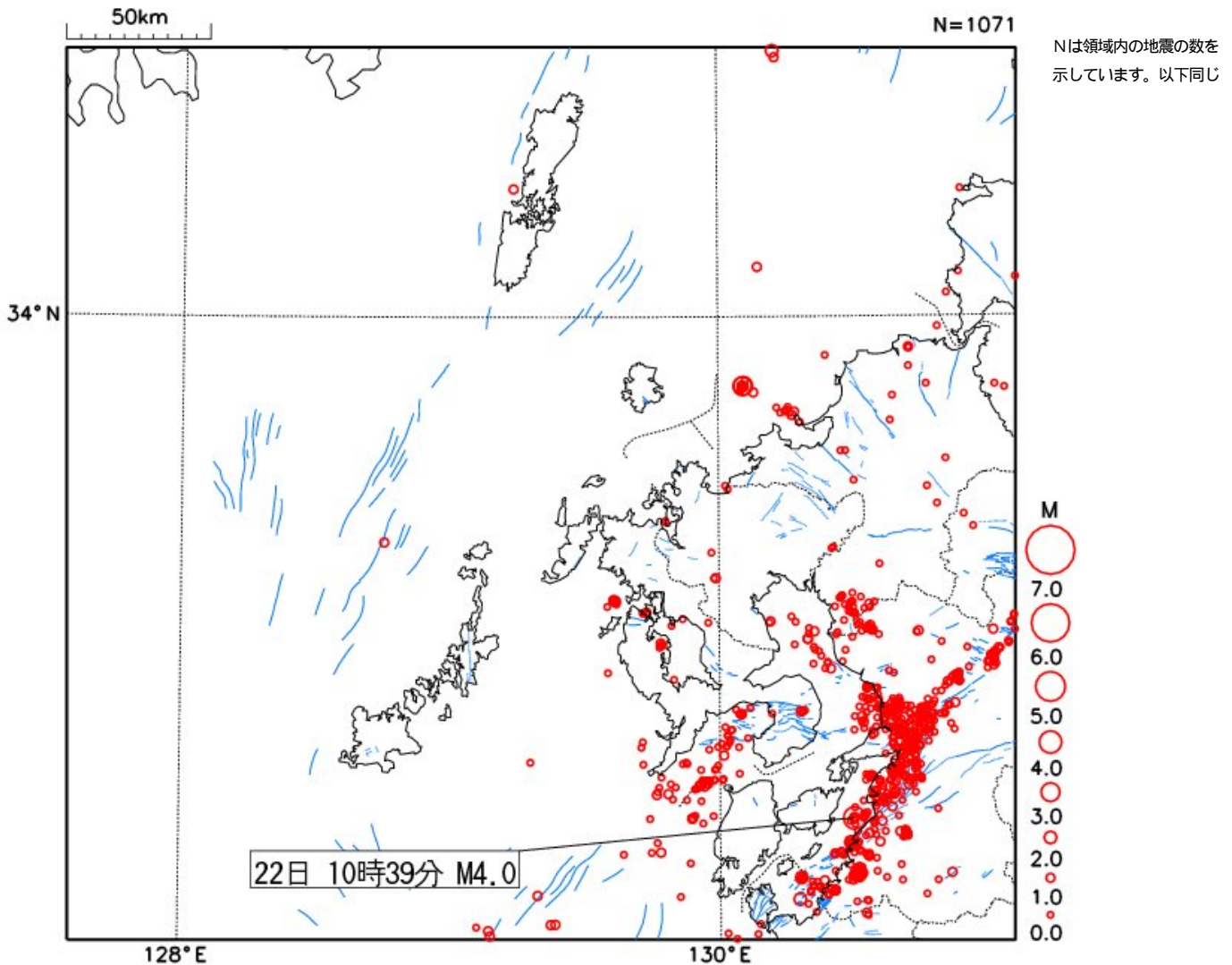


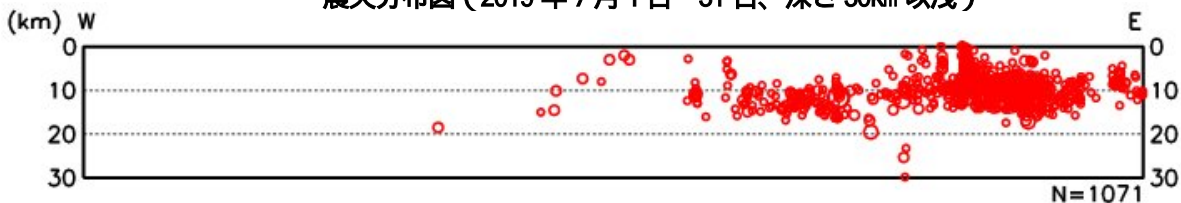
長崎県の地震活動概況 (2019 年 7 月)

令和元年 8 月 8 日

長崎地方気象台



震央分布図 (2019 年 7 月 1 日 ~ 31 日、深さ 30km 以浅)



断面図 (2019 年 7 月 1 日 ~ 31 日、深さ 30 km 以浅)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

地震活動の概況 (2019 年 7 月)

7 月に長崎県内で震度 1 以上を観測した地震は 1 回でした (6 月 : 0 回)。詳細は次ページ以降のとおりです。

本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す (活断層のデータは新編日本の活断層による)

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成しています。

熊本県天草・芦北地方(「平成 28 年(2016 年)熊本地震」の活動域)

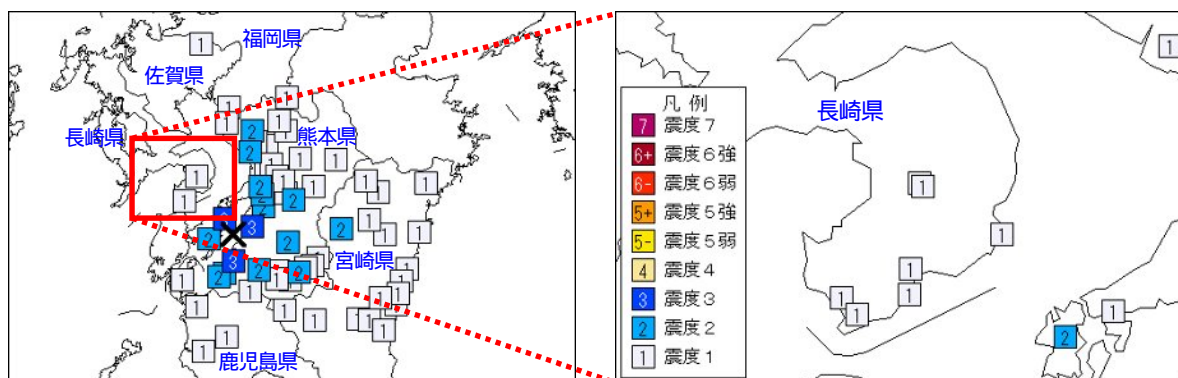
22 日 10 時 39 分に熊本県天草・芦北地方で発生した M4.0 の地震(深さ 11 km)により、熊本県で震度 3 を観測したほか、九州地方で震度 2 ~ 1 を観測しました。長崎県では、雲仙市と南島原市で震度 1 を観測しました(図 1)。

今回の地震の震源付近(図 2 領域 a)では、2019 年 3 月 20 日に M3.5 の地震(深さ 11km、最大震度 3)が発生し、長崎県では島原市で震度 1 を観測しました。

今回の地震は「平成 28 年(2016 年)熊本地震」の活動域内で発生した地震です。

「平成 28 年(2016 年)熊本地震」に関しては、以下の気象庁ホームページを参照ください。
気象庁(熊本地震特設ページ)

http://www.jma.go.jp/jma/menu/h28_kumamoto_jishin_menu.html



7 月 22 日 10 時 39 分 M4.0
図 1 震度分布図(左:市区町村別、右:観測点別 ×:震央)

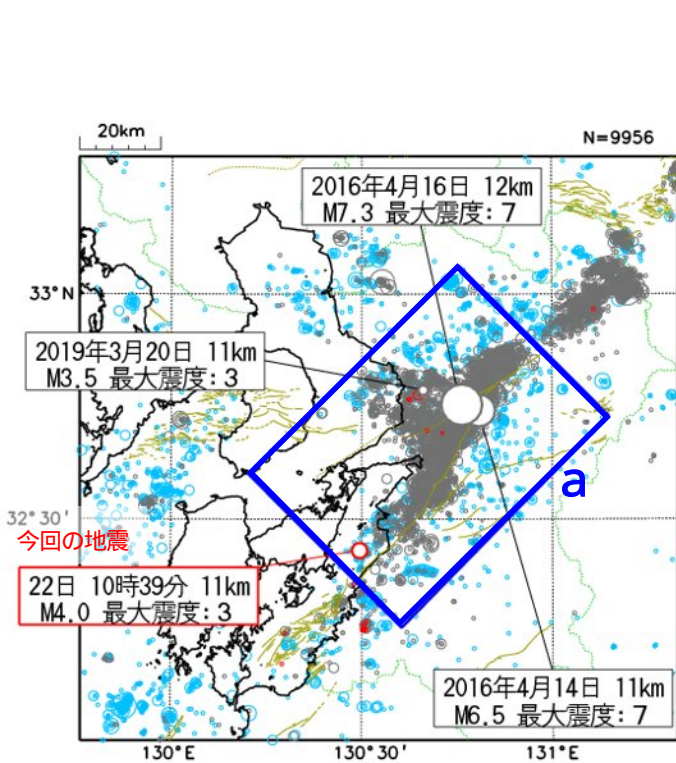
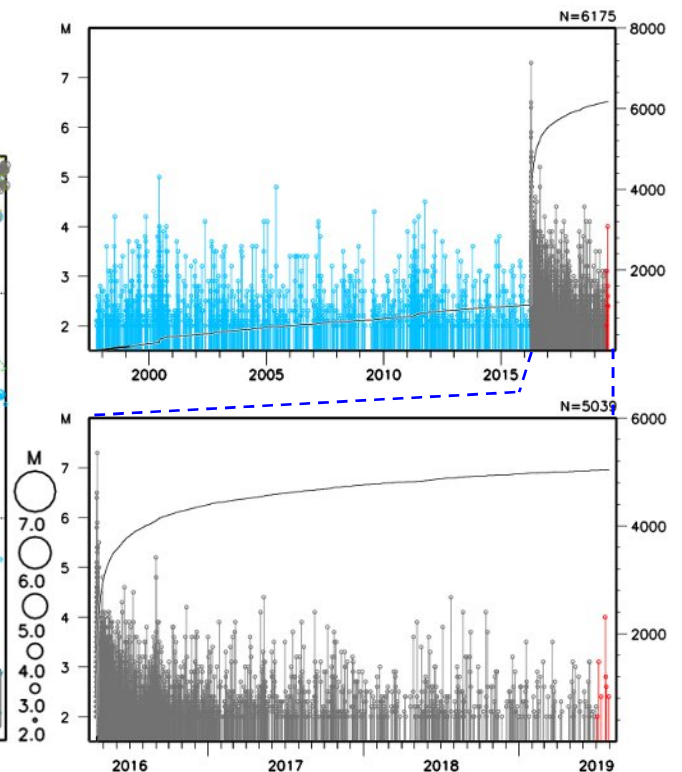


図 2 震央分布図

(1997 年 10 月 1 日 ~ 2019 年 7 月 31 日 深さ 0 km ~ 20 km M 2.0)
2016 年 4 月 14 日以降の地震を灰色で、2019 年 7 月の地震を赤色で表示
図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す



長崎県内で震度 1 以上を観測した地震の表 (7 月 1 日 ~ 31 日)

震源時 (年月日時分) 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2019 年 07 月 22 日 10 時 39 分	熊本県天草・芦北地方	32° 25.8' N	130° 29.7' E	11km	M4.0
震度 1 : 雲仙市小浜町雲仙, 雲仙市雲仙出張所 *, 南島原市口之津町 *, 南島原市南有馬町 * 南島原市北有馬町 *, 南島原市布津町 *, 南島原市加津佐町 *					

注) 震源要素 (緯度・経度・深さ・M) は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

「防災の日」と「防災週間」

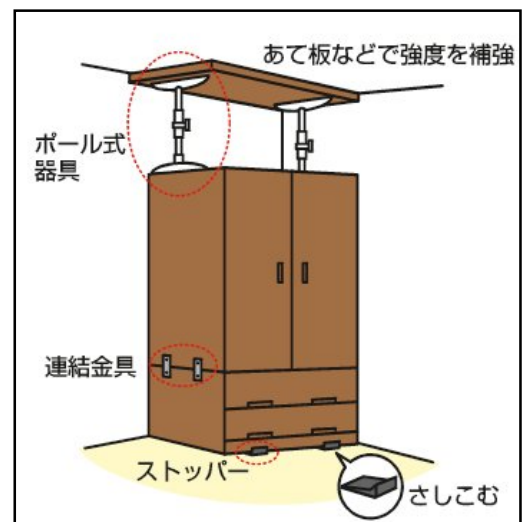
～いつかくる災害に備えて～

毎年、9月1日は「防災の日」、8月30日～9月5日は「防災週間」です。

この期間には、国や防災関係機関をはじめ、広く住民の方が地震、津波等の災害への理解を深めるとともに、これに対する備えを充実強化していただくために、全国各地で大きな地震を想定した防災訓練や防災講演会などのイベントが開催されます。この機会にこれらのイベントに参加して防災に対する意識を深め、**日頃からの備え**と大きな地震が起こった時の**とるべき行動**を確認し、災害にしっかり備えましょう。

日頃からの備え

日頃からの地震への備えには、『家具の固定や配置の見直し』、『水や食料・生活用品の備蓄』、『建物の耐震診断や耐震化』などがあります。近年の大きな地震の際には、多くの人々が家具の転倒によりケガなどを行っています。右の図を参考に家具を固定しましょう。また、寝室に重い家具を置かないなど、配置にも気を配りましょう。大きな地震が発生した時は、電気・水道・ガスなどのライフラインが停止することがありますので、水や食料品などを備蓄しておきましょう。建物の耐震診断などは市町村の窓口へ相談しましょう。



みんなで減災（内閣府パンフレット）より

とるべき行動

緊急地震速報を見聞きした場合や地震による強い揺れを感じた時の具体的な行動は周囲の状況によって異なります。日頃からいざという時の行動を考えておきましょう。

家庭では



- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外に飛び出さない
- 無理に火を消そうとしない

人が大勢いる施設では



- 施設の係員の指示に従い、落ち着いて行動し、あわてて出口に走り出さない

屋外（街）では



- ブロック塀の倒壊等に注意する
- 看板や割れたガラスの落下に注意する

いざという時の行動例

その他の行動例や緊急地震速報については気象庁のホームページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eww/data/nc/koudou/koudou.html>